

令和 6 年度学校魅力化フォーラム 事例発表

公共施設等総合管理計画改定に係る 首長及び教育委員会の連携等

令和 6 年 8 月 8 日

神奈川県海老名市財務部営繕課

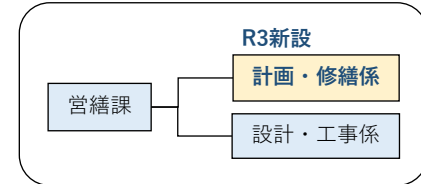


はじめに

一般的に公共施設等総合管理計画は、公共施設マネジメント部門や企画政策部門で作成し、個別施設計画は施設所管課で作成することが多いと認識しています。

本市においては、令和3年度に機構改革を行い、営繕課が従来の建築の設計・工事監理業務のほか、公共施設マネジメント業務の一部も担うようになりました。

図 海老名市営繕課の組織図



そのため、営繕課が主軸になって、教育委員会を含めた施設所管課と共に「海老名市公共施設（再編）適正化計画※」の策定・改定等を行っております。

本日は、その内容、経過、課題等について紹介いたします。

※「海老名市公共施設再編（適正化）計画」とは総務省の所管する公共施設等総合管理計画のこと

目次

- 1 海老名市の概要
- 2 海老名市公共施設再編（適正化）計画の概要
- 3 首長及び教育委員会の連携
 - ・ 概要
 - ・ 計画
 - ・ 工事

まとめ



1 海老名市の概要

海老名駅周辺を中心としたまちの賑わいと、豊かな広がりを持つ田園風景や丹沢大山の眺望などの自然環境と調和がとれた、魅力あふれるまちとして発展

神奈川県ほぼ中央に位置



人口：140,562人（令和6年7月現在）

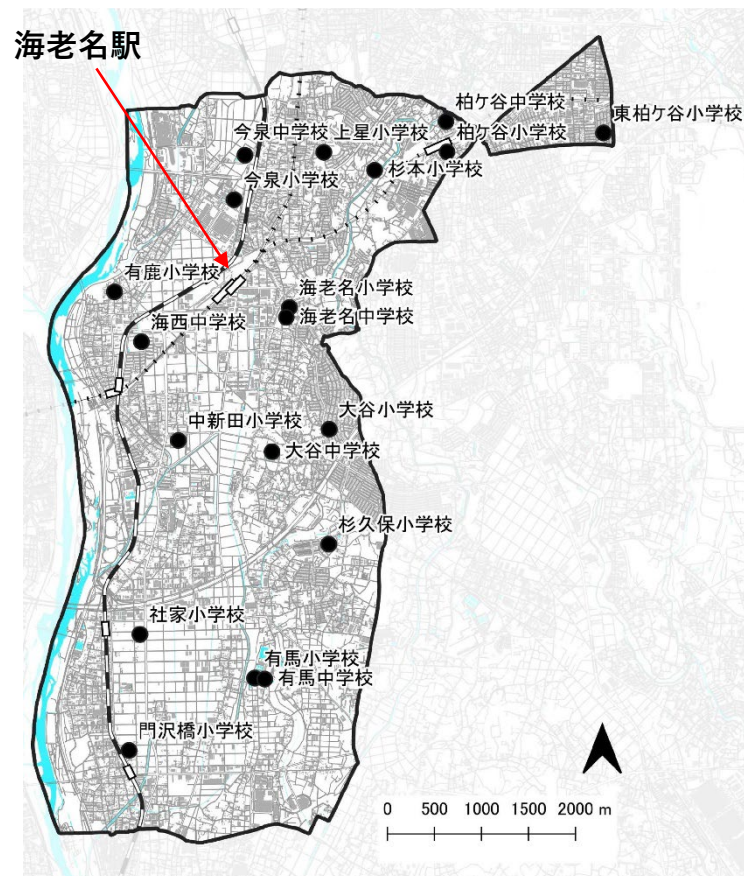
面積：26.59km²

市民利用施設：115施設

うち小学校13校

中学校6校

図 海老名市の学校配置状況



海老名市

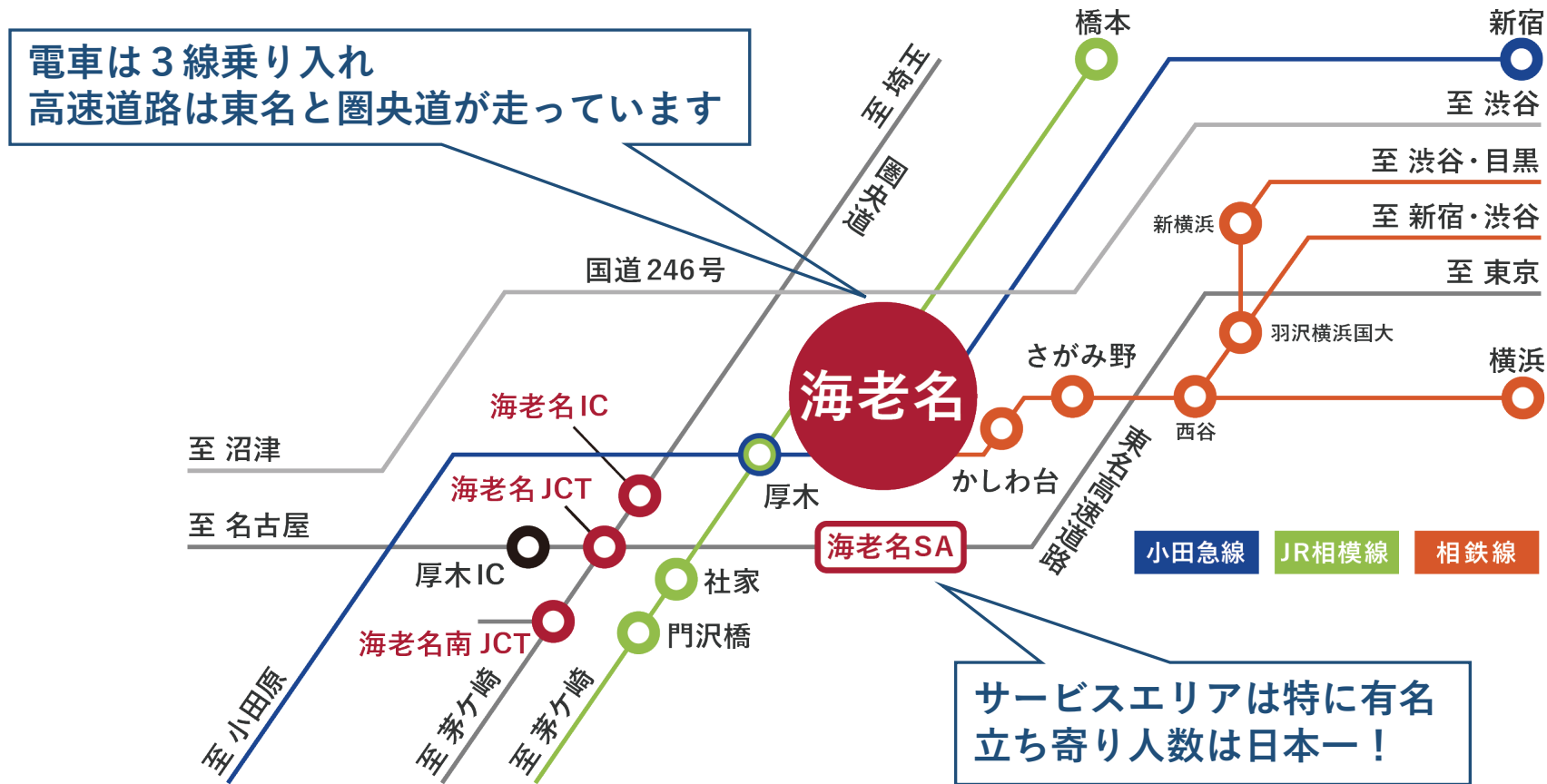
住みたい 住み続けたいまち

公共施設以外でも、土地区画整理事業等の事業によりまち全体（官民連携）で海老名市を盛り上げる取り組みを実施



交通網の発達も特徴の一つであり、通学通勤の利便性の高さや物流の拠点としても注目を浴びている

図 海老名駅周辺の路線図



その結果、本市のテーマである「**住みたい住み続けたいまち**」の実現へ近づいている

住みたい街（駅※）ランキング

小田急線沿線 **第1位**

※小田急線を代表的な路線とする駅

出典：株式会社リクルート

「SUUMO住みたい街ランキング2023 首都圏版」

住みよさランキング2023

神奈川県内 **第2位**

出典：東洋経済ONLINE

『「住みよさランキング2023」全国総合トップ200』

社会増加率

他地域からの転入、他地域への
転出によって生じる人口の増減

神奈川県内

第1位

15歳未満

人口増減率

川崎市幸区、

横浜市西区・港北区について

神奈川県内

第4位

20代~ 30代女性

人口増減率

川崎市多摩区について

神奈川県内

第2位

出典：「首都圏145市区郡成長力ランキング」『suumo』

2023.12.19発行 p12-p16 株式会社リクルート



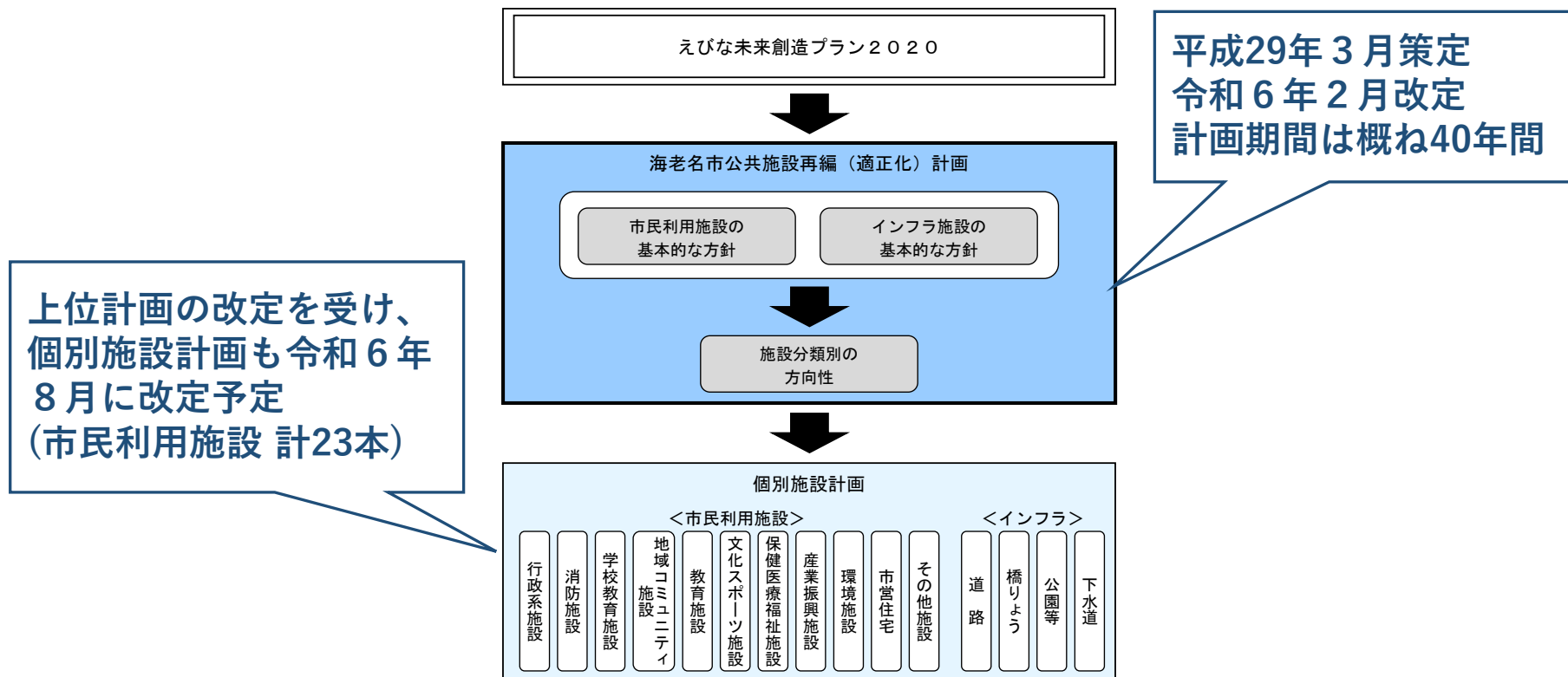
海老名市

住みたい 住み続けたいまち

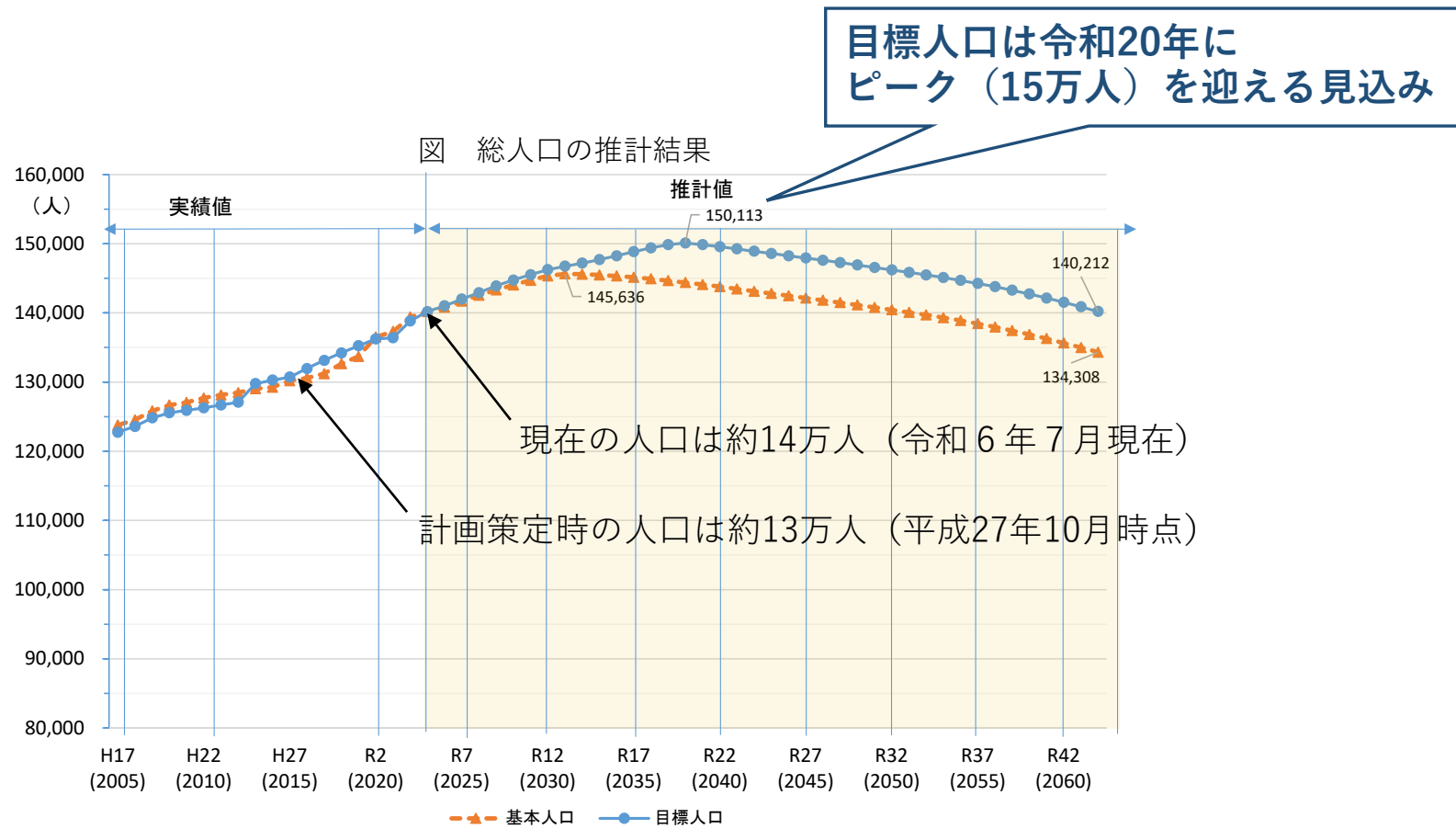
2 海老名市公共施設再編（適正化）計画の概要

将来にわたり公共施設におけるサービスの提供を維持していくために、将来費用の負担軽減に取り組むことにより、効率的な運営の実現を目指し策定された

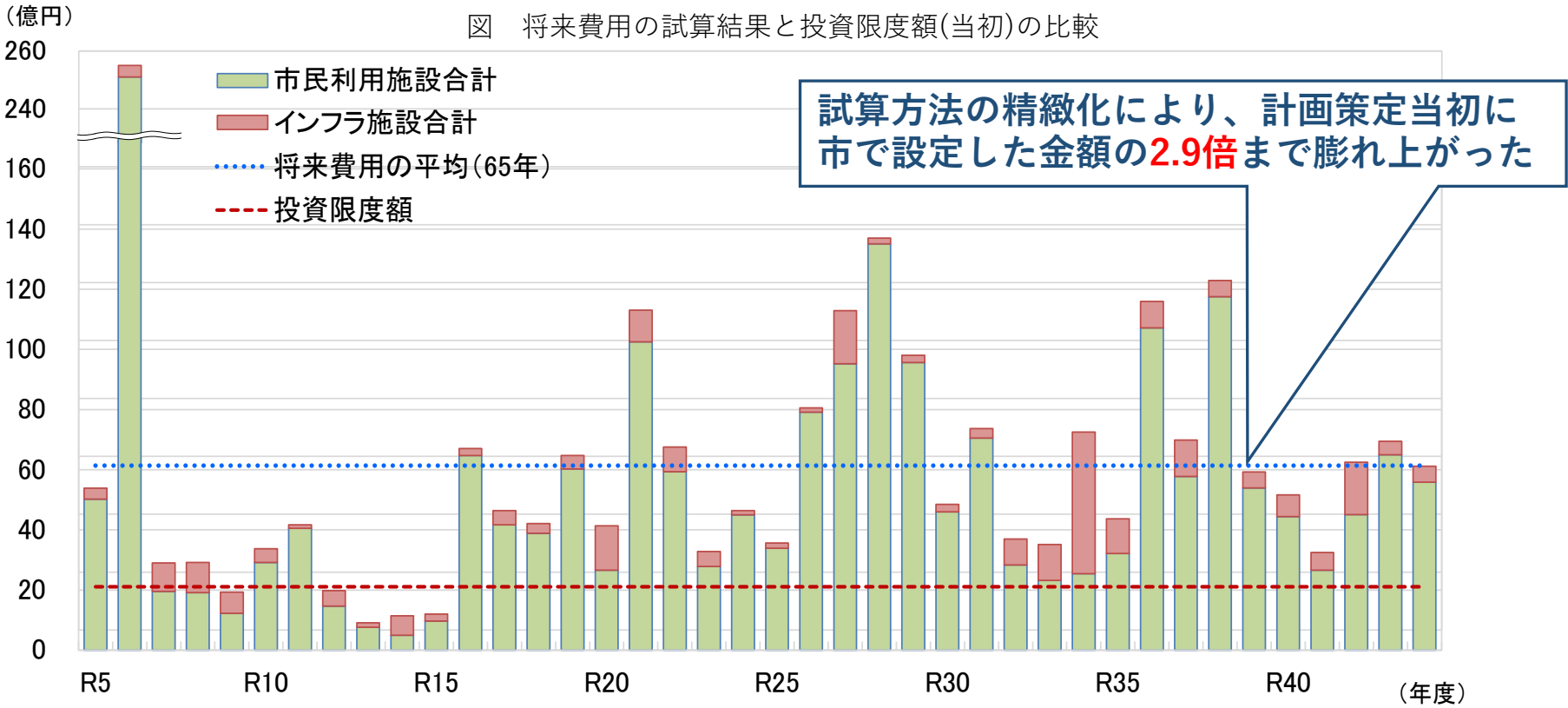
図 公共施設再編（適正化）計画の位置づけ



人口の見通しは、現在は増加傾向にあるが、将来的には減少・高齢化に転じるため
将来に向けての対策が必要になる

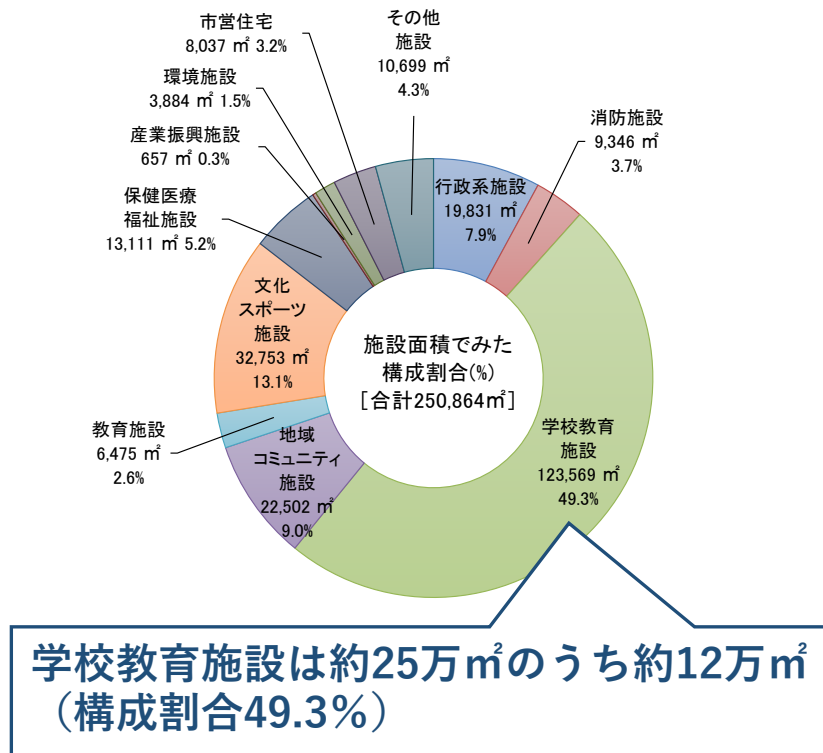
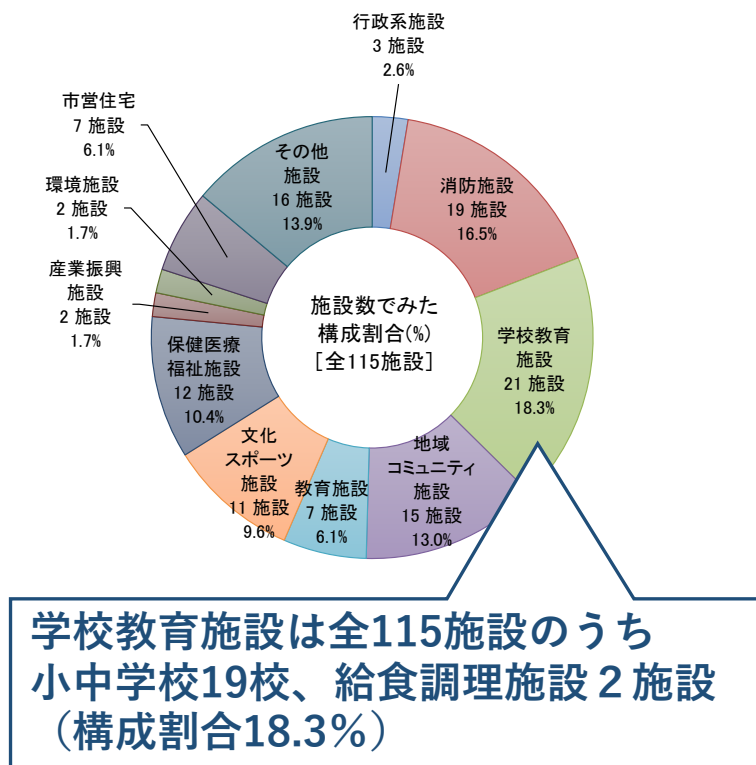


将来費用の試算結果額は、現在の115施設を今後40年に渡り保有した場合の費用は
市民利用施設2,164億円＋**インフラ施設292億円**＝**2,456億円**



施設数・施設面積のどちらにおいても学校教育施設が本市全体の多くを占めている

図 施設数・施設面積でみた構成割合



膨れ上がった将来費用の対策として、将来の財政状況や多様化する市民ニーズに対応するため、「**あり方**」及び「**整備・維持管理の方針**」を定めた

図 市民利用施設におけるサービスのあり方の方針

市民利用施設においては、行政が責任を持ってサービスの提供を行います。また、民間等も含む様々な主体とも連携して質の高いサービス提供に努め、市民サービスの向上に取り組みます。

図 市民利用施設の整備・維持管理の方針

方針1 新規施設の整備は、市民の安全確保を図る場合や厳選したニーズに対応する場合に行います。

方針2 既存施設の統廃合、複合化などにより施設面積の削減に取り組み、長期的にみた施設の保有総量を現状より20%程度抑制します。

方針3 既存施設の点検等を継続的に実施し、財政的な制約に対応するために長期的な視点から検討し、必要な改修・更新を実施します。

方針4 利用の低迷や設置当初の目的を果たした施設については、早期に今後のあり方を検討します。

方針5 施設面積の約半数を占める小中学校は、人口動向や地域コミュニティにおける学校の役割などを考慮した長期的な観点から、地域特性に応じて統廃合や多機能化を推進し、適正規模での配置を行います。

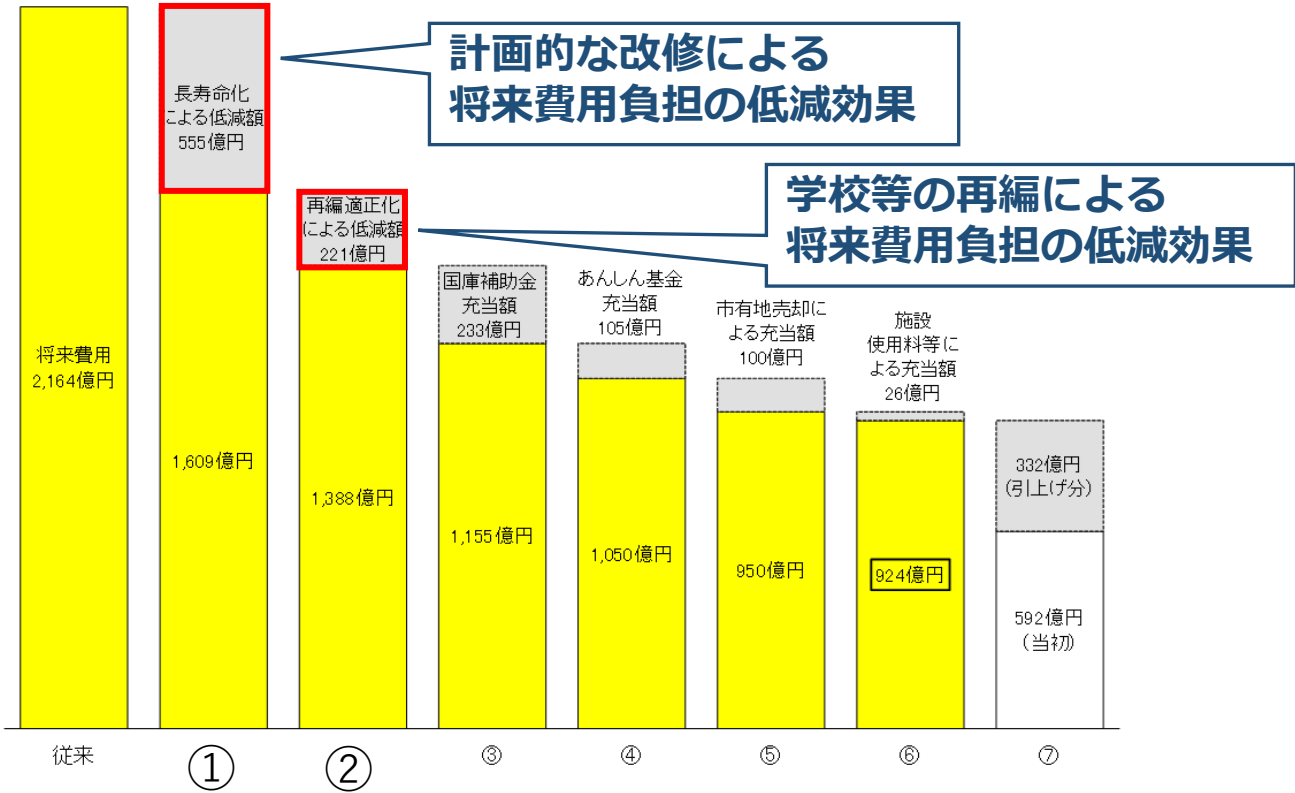
**市全体の取り組みとして施設面積
20%程度の抑制に取り組む**

今後の計画的な改修工事を設定

**小中学校は、地域の特性に応じて
適正規模で統廃合・複合化して配置**

様々な対策を講じた場合の将来費用は、**2,164億円**から**924億円**に圧縮（▲1,240億円）

図 市民利用施設に係る将来費用のコストイメージ



3 首長及び教育委員会の連携

計画・進行管理・工事・保守を**すべて一貫**して営繕課主導にて管理することで
「計画」と「行動」をすり合せている

図 海老名市の公共施設マネジメントの業務範囲イメージ

進行管理は特に重点
管理項目として認識

公共施設マネジメント（営繕課）

計画

総合管理計画

個別施設計画

進行管理

公共施設再編
（適正化）計画
推進検討部会

工事

設計・監理

修繕対応

保守

点検

データ集積

全115施設（教育委員会・その他施設所管課）

全てを連動・循環させて計画の実現性を向上させている

将来的に範囲拡大

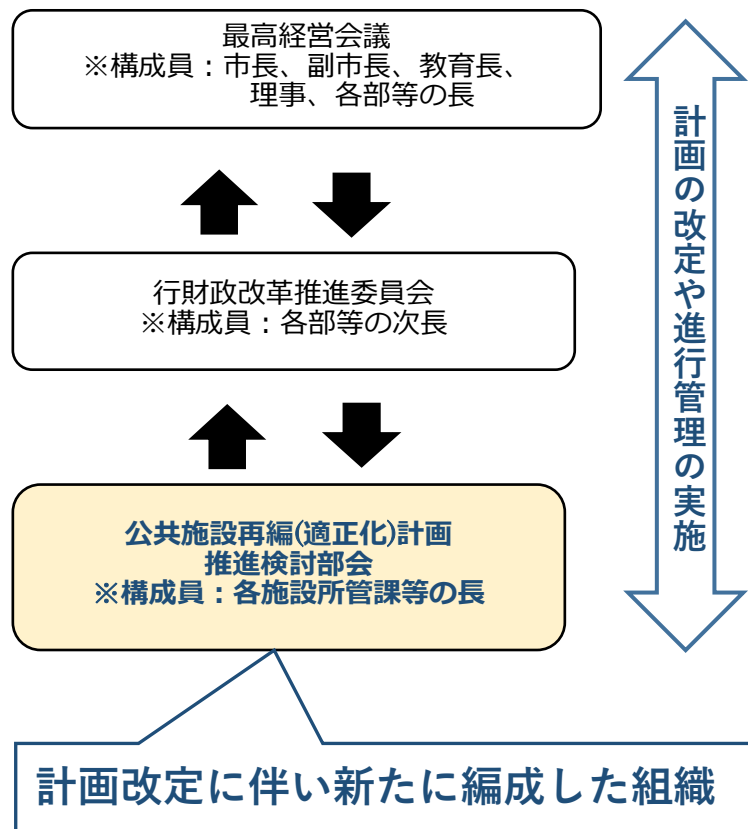


海老名市

住みたい 住み続けたいまち

部局横断的に課題及び情報を共有するため、3者による連携体制を確立した

図 三者による組織横断的な連携体制のイメージ



公共施設再編（適正化）計画推進検討部会誕生の流れと効果

当初は、課ごとに調整する縦割りで一方向の調整だったが、**首長部局と教育委員会を一緒にまとめた部会を構成**し、市長や教育長を含んだ既存の意思決定機関等と連携することで横串にした体制を作り、双方向の調整がスムーズになった。

公共施設再編（適正化）計画推進検討部会の役割は、営繕課主導により各施設所管課へ情報提供や課題解決の場として課と課を繋ぐ役割を担っている

図 公共施設再編（適正化）計画推進検討部会の構成

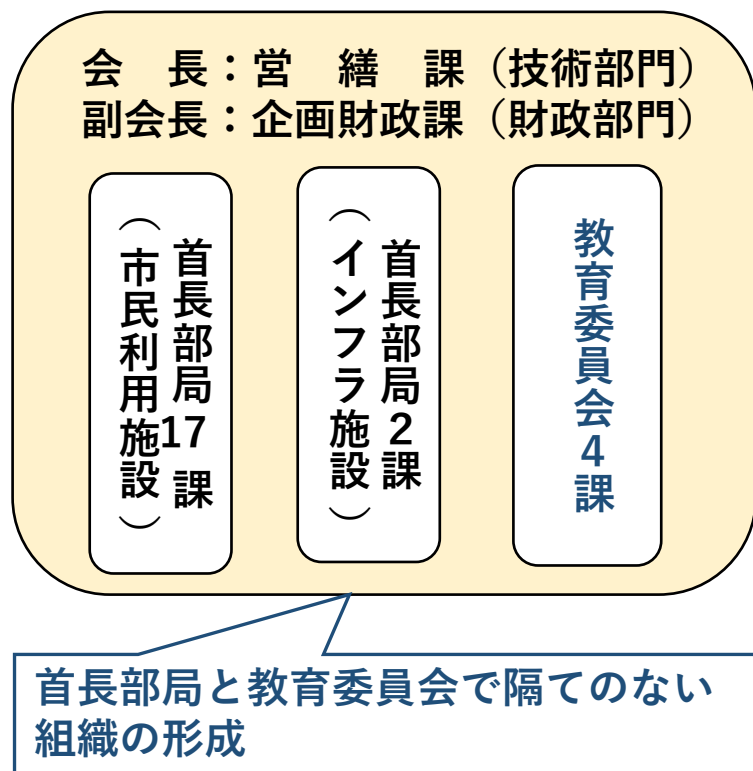
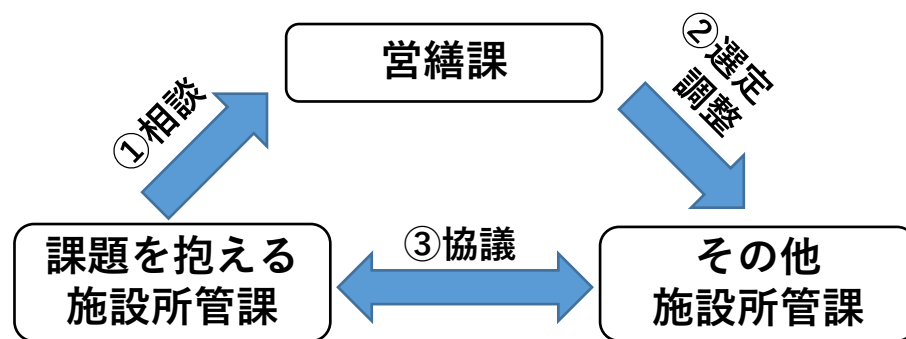


図 課と課を繋ぐ際のフロー



推進検討部会の主な活動実績

令和3年度

- ・学校統廃合案を教育総務課と営繕課で勉強会を実施

令和4年度

- ・学校との複合化が可能とみられる地域づくり課、教育総務課、営繕課で勉強会を実施

⇒上記勉強会を経て、教育委員会内で別PTを立上げ学校再編案の作成



令和4年度実施の3課(営繕課・教育総務課・地域づくり課)勉強会の紹介

○検討した施設

小中学校、コミュニティセンター（公民館）

○検討事項

- ・複合化に伴う課題の洗い出し（機能別）

部屋ごとの「機能」と「利用時間」を組合せて2施設間で複合化できる要素の検討

- ・複合化することによる効果の検証

メリット、デメリットの確認（ハード面・ソフト面）

- ・公民連携アドバイザー派遣事業を利用し、勉強会の実施

テーマ：施設の集約・複合化検討及び学校跡地活用検討等

「学校エリア」と「その他エリア」のセキュリティ確保の問題が検討の中で浮き彫りになりました

メリット：世代間交流
施設の有効活用
デメリット：学区の再編成
通学手段等

地元との合意形成が課題の1つ

参考に勉強会で使用した資料を紹介いたします。

○再編計画の改定に伴う市民ワークショップの実施結果まとめ
ワークショップの概要（全5回実施・各回2時間程度）

主 題：将来の海老名市内公共施設（建物）の統廃合及び複合化について

参加者：PTA及び自治会等の関係団体、高校生、一般公募の方々 計36名で実施

市民の意見を検討部会を通じて各施設所管課にフィードバックしました

「複合化」の効果と留意点

キーワード	世代間交流	管理・運営	使い合う
	セキュリティ	負担軽減策	庁内体制
意見が多かった 複合化案	小学校 + コミセン + 学童 + 保育園 + 老人福祉施設 等		

期待できる効果

- 世代間交流
 - 多様な施設が集約されることで、さまざまな世代と触れ合うことができる場となる。
 - 放課後、大学生や高校生が自習しながら小中学生の宿題をサポートするなど新たな交流も期待
 - 複合施設に人がいることが見守りにつながることも期待できる。
- 管理・運営の効率化
 - 限られた人材をシェアすることで効率化できる。
 - 管理運営を一元化できれば、運営時間の見直しもできる（運営時間を延ばす、時間をあわせる等）。
- 機能・スペースを使い合う
 - 空き教室、音楽室、家庭科室、体育館、運動場等

留意点

- セキュリティの確保
 - 不特定多数の人が訪れる機会が増えるため、セキュリティの確保が重要
- 教員の負担軽減策
 - 学校を複合化することで、教員の新たな負担増にならないよう工夫が必要
- 庁内の横断的な体制
 - 所管部署が複数にわたる施設の横断的な管理運営体制の構築が必要

「統合」の効果と留意点

キーワード	適正化	コストダウン	交通
	設置場所	学校	魅力・サービスの向上

期待できる効果

- 適正化
 - 人口及び予算における施設数量の適正化を図る。
- コストダウン
 - ハコものにかかるインシャルコスト、ランニングコストを削減

留意点

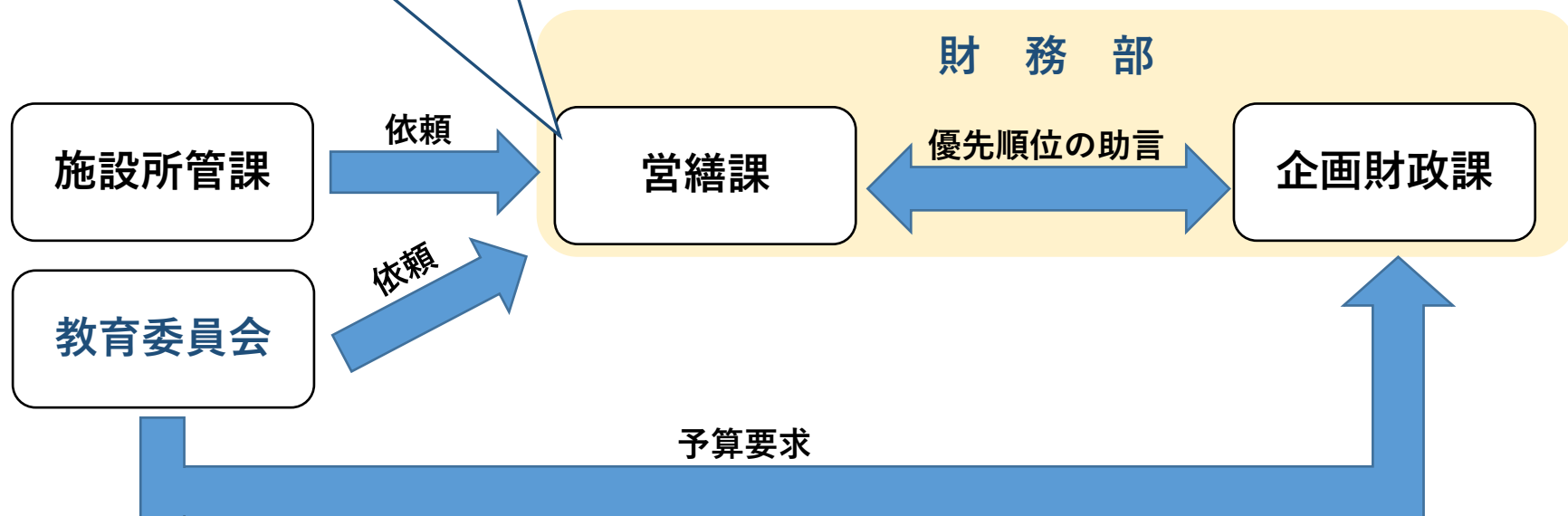
- 交通の確保
 - 移動距離が延びるため、交通面（移動手段）の配慮も合わせて検討が必要
- 設置場所
 - みんなが行きやすい場所
 - 避難所や防災拠点の視点も重要
- 学校
 - 小学校は、均一に配置されている利点（徒歩圏内）を活かし、地域の拠点化を検討
 - 中学校の統合については理解あり（自転車利用、私立校）
- 魅力・サービスの向上
 - みんなが使いたいと思う施設になるよう魅力・機能を向上すべき
 - （予約がしやすい、Wi-Fi設備、カフェなどの憩い
スペース、夜間・土日運営、映え等）



計画の実行性や精度を高める要素として、情報収集や部局横断的な視点による検討を行うため、市民利用施設の工事業務を**営繕課に全て集約した**

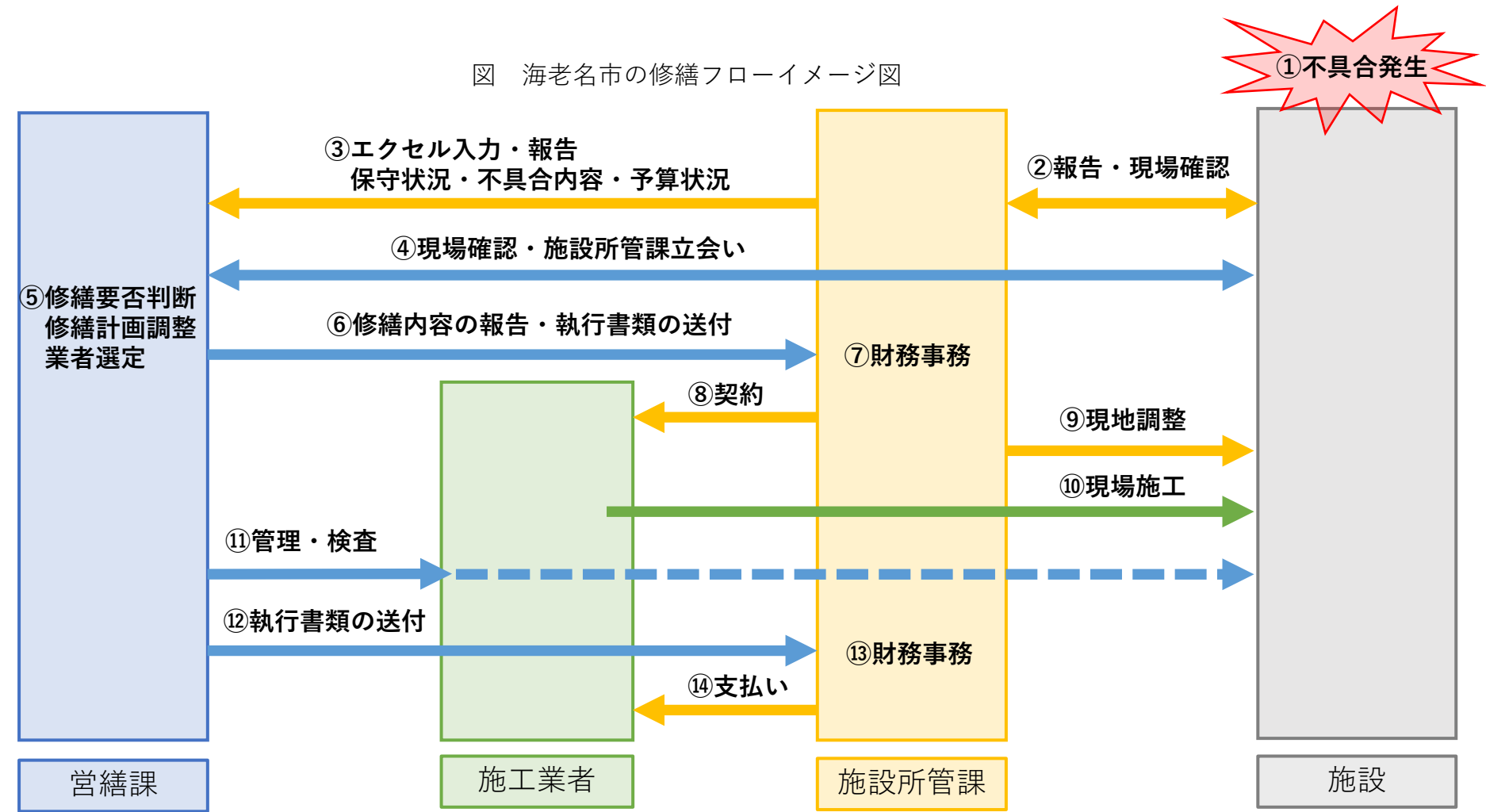
「修繕一元化」と称して市全ての入札工事や修繕を営繕課にて設計・監理

図 海老名市の工事フローイメージ図



修繕フローを確立し、突発的な故障でも庁内のスムーズな連携体制を構築

図 海老名市の修繕フローイメージ図



まとめ

海老名市公共施設再編（適正化）計画改定に際し、市民ワークショップや市民アンケートを実施し、公共施設サービスに対する市民の思いに直接触れ、学校を始めとする公共施設への期待と時代の変化に応じた新しいニーズを肌で感じました。

また、計画改定にあたり、施設所管課と施設のあり方を調整する中で感じた縦割り構造の解決方法をうまく示すことができれば、施設の管理者および利用者にもより理解と協力が得られるのではないかと感じました。

部局横断的に計画を進めていくためには、課題と目的を共有し、公共施設マネジメントを管理する体制をつくり、市全体として動いていくことが重要だと考えています。

計画の実行は、まだまだこれからではありますが本市の事例が参考になれば幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

市民ワークショップの発表風景

